



THE FUTURE IS NOW

製造のプロセスでは地球から何ひとつ搾取することなく、廃棄のプロセスでは地球に何ひとつ残しません。

目次



04	はじめに
04	CEOからのメッセージ
05	Nothing Technologyについて
06	本サステナビリティ報告書について
07	2025年、当社の目標
08	製品ハイライト
10	循環性
12	目標と進捗状況
13	当社のソリューション
21	気候行動とカーボントランスペアレンシー
22	目標と進捗状況
23	当社のソリューション
31	環境への影響が少ないパッケージ
32	目標と進捗状況
33	当社のソリューション
35	グリーンケミストリーの推進
36	目標と進捗状況
37	当社のソリューション
40	持続可能なサプライチェーン
41	目標と進捗状況
42	持続可能な方針
43	付属書
44	付属書 A: 目標の方法論
45	付属書 B: 温室効果ガスの排出
46	付属書 C: 証明書

CEOからのメッセージ

Nothing初のサステナビリティ報告書を公開します。

当社のビジョン、それは、テクノロジーを再び楽しいものにする世界の構築です。活気を失った今日のテック業界に新風を吹き込む、新しい製品の導入。企業の拡大に伴い、私たちには社会的責任を担う義務があります。

社会的に意義のある製品を世に送り出してグローバルな支持を獲得すると同時に、地球に与える影響を最小限に抑えられるなら、あえてリスクを取った甲斐があったと思えるでしょう。創業してからまだ日も浅い企業である当社には、学ぶべきことが多々あります。一方、その見返りとして、環境に配慮した当社の事業活動が継続的な発展を遂げれば、真の意味で改革のリーダーとなる機会が生まれるのです。

当社では常にサステナビリティが話題の中心に上ってきました。当社が初めて世に送り出した製品、Ear (1) はカーボンオフセットに着目し、世界初のカーボンニュートラルなイヤホンとなりました。幸先のいいスタートとなりました。しかしながら、当社が本格的にサステナビリティを意識するようになったのは、次の製品からです。Phone (1) では、100%再生可能なエネルギーで製造した100%リサイクルアルミニウム製のフレームを開発しました。次なる施策として、当社ではサプライチェーンとのパートナーシップを通じ、先進性を究め、環境に一層配慮した製品の開発に力を注いでいます。

先日、当社がPhone (1) で採用しているアルミニウムグレードを自分たちも利用できないだろうか、とのお問い合わせを他のブランドからいただきました。当然ながら、私たちはそのお申し出に賛同しました。当社の影響力は前向きな方向で活用できると認識しています。サステナビリティを一層意識した業界の構築に他のブランドや新規参入者を巻き込み、共に取り組んでいきたいと考えています。

サステナビリティというジャーニーの到達点に立つ日が楽しみでなりません。

今後も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

Carl Pei、Nothing チーム一同



Carl Pei
CEO 兼共同創設者

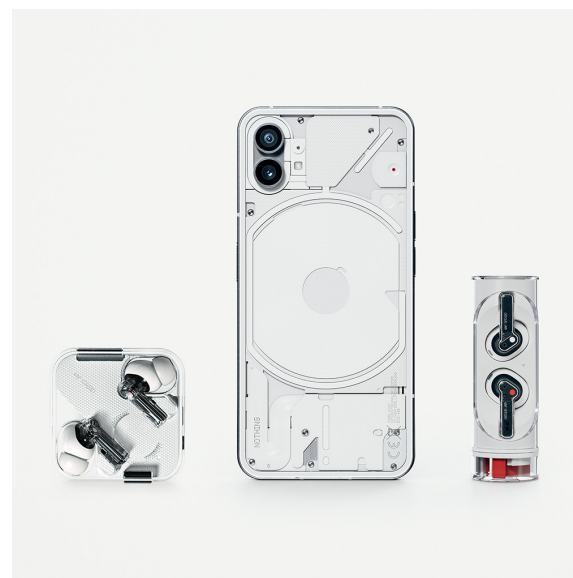
Nothing Technology について

私たちの生活はテクノロジーと密接な関係にあります。ただ、テクノロジーばかりが進むと、ルック&フィールがどれも似たり寄ったりで単調なものに陥りがちです。面白みのない製品構想ばかりに固執してしまいます。テクノロジーという巨人の支配から抜け出せずにいます。

Nothing はそこから脱したいと考えました。アイコンニックな製品を世に送り出し、もっと楽しくテクノロジーと触れ合えるようにしました。当社の精緻なエンジニアリングは Phone (1) 背面の Glyph インターフェースや、イヤホンの透明なステムとして具体的な形となり、テクノロジーを再び楽しいものにする世界観を構築しています。なぜなら、それがテクノロジーの原点だからです。

Nothing はデザインを追求し、同時に、品質についても決して妥協しません。最新鋭の当社研究開発ラボでは、人と地球のよりよい環境に配慮したサステナビリティ戦略も展開しています。

当社は好奇心をまさに刺激する事業活動を展開しています。私たちは大きな組織ではありませんが、だからといって影響力がないとは断言できません。人間も皆、それぞれに影響力を発揮しています。Nothing のカルチャーはオープンで誠実です。Nothing は同じ志を持つ思想家や信奉者と緊密に結ばれたコミュニティを築き、ジャーニーを共有しています。



本サステナビリティ 報告書について

Nothing Technology Limited は誠意と透明性を持つ価値を重んじ、本サステナビリティ報告書を独自に発行しています。

本報告書では、当社がブランドとして今後も成長し、向上していく上で、環境の持続可能性に関するビジョンや目標、具体的な施策を詳細に開示しています。

報告書の対象範囲

本書は Nothing が発行する第1回サステナビリティ報告書です。2021年および2022年暦年(2021年1月1日～2022年12月31日)における Nothing の事業活動について述べたものです。

外部保証

当社の温室効果ガス排出インベントリやマテリアルリサイクルに関する声明書など、本報告書の一部コンテンツでは、SGS、テュフ・ラインランド、DEKRA の各第三者認証機関から外部保証を取得しています。詳細については付属書 Cをご覧ください。

お問い合わせ

本報告書についてのご質問のほか、詳細情報のご請求については、メールアドレス sustainability@nothing.tech までお問い合わせください。



2025 年、当社の目標

環境に配慮するブランドである当社は、自社製品が世界的な環境に与える影響を継続的に検討して環境保全上喫緊の問題点を特定し、その解決に向け、達成可能な目標を設定しています。当社の目標はすべて根拠を明確に解説し、定量化やトレースが円滑に進むよう構成されています。
詳細については付属書 A をご覧ください。

循環性

- ・ 金属：当社製品で使用中の主要金属 11 種中 7 種でリサイクル材料を採用する。
- ・ プラスチック：当社製品で使用するプラスチックの 80% はリサイクルまたは再生可能な材料を使用する。
- ・ Nothing 製品当社製品の製品寿命を延ばし、トレードインプログラムを立ち上げ、製品リサイクルプログラムの対象地域拡大を図る。

気候行動とカーボントランスペアレンシー

- ・ 全製品にカーボンフットプリントラベルを貼付する。
- ・ 2025 年より、全製品シリーズで世代別カーボンフットプリントの削減を徹底。
- ・ 主要サプライヤーが Nothing 関連業務を実施する際、100% 再生可能エネルギーを使用するよう求める。
- ・ 炭素除去プロジェクト、カーボンオフセットプロジェクトへの参加。

環境への影響が少ないパッケージ

- ・ コンパクトで軽量のパッケージデザインの採用。
- ・ スマートフォン製品ラインでプラスチックを使用しないパッケージの採用を達成後、他の製品ラインへと段階的に波及させる。
- ・ 製品および梱包用パッケージではすべてリサイクル繊維か FSC 認証済みのものを使用する。
- ・ パッケージ上の印刷部分を減らし、100% プラントベース、またはカーボンネガティブな顔料を使用する。

グリーンケミストリーの推進

- ・ 原材料の組成情報に関する情報をサプライヤーから収集し、製品に使用されている化学薬品を網羅したデータベースを構築。データ件数は 1 万件を上回るものとする。
- ・ サプライチェーン全体で Nothing Restricted Substance Management Standards の準拠を促し、サプライヤーによる制限物質の使用を禁じる誓約書への署名を全サプライヤーに求める。

持続可能なサプライチェーン

- ・ サプライヤー向けに一連のサステナビリティ方針を導入し、定期的に評価して最新の進捗状況を把握する。具体的には以下のとおり。
 - 水：主要サプライヤーの製造部門ユニット単位での水の消費量削減。
 - 廃棄物：主要サプライヤーに埋め立てによるゴミ投棄ゼロを達成させる。
 - 鉱物サプライチェーン監査を責任を持って実施する。Nothing 紛争鉱物報告書を定期的に発表し、精錬所や精製所のリストを公開する。

製品ハイライト

2021年リリース、Nothing初の製品 Ear (1) は、世界で初めてカーボンニュートラルを達成したイヤホンです。達成に寄与したのが、製造段階での再生可能電力の導入と、VCS 認証に準拠したカーボンクレジットによるオフセットです。

続いての登場が Phone (1)。当社のエコフレンドリーな活動はさらに一歩先へと進みました。

塩素系・臭素系難燃剤、21フタル酸エステル、水銀、ベリリウム、PVCの使用を大幅に削減。

ミドルフレーム、ボリュームボタン、電源ボタン、SIMトレイチップには100%リサイクルのアルミニウムを使用、製造時は100%再生可能エネルギーを利用。

メインボードと回路基板のはんだ付け工程では、100%リサイクルのスズはんだを使用しています。

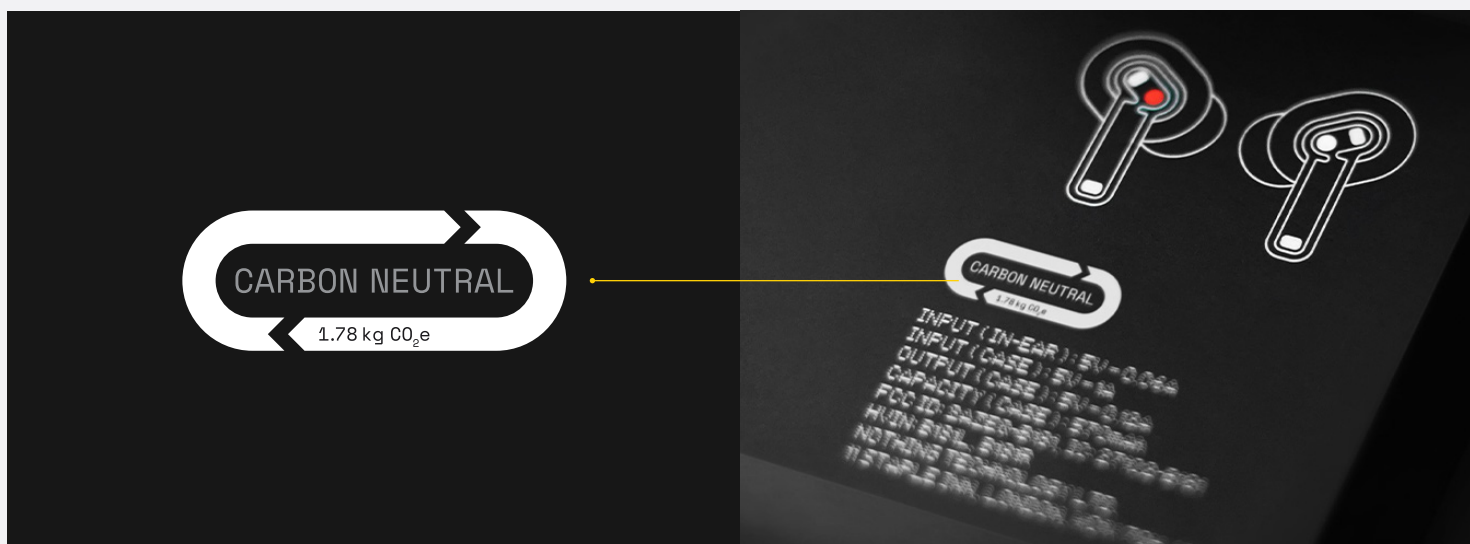
プラスチックコンポーネントの50%以上にバイオプラスチックと再生資源のいずれかを採用。

パッケージにはプラスチックフィルムを使わず、リサイクル繊維を40%以上使用。Phone (1)の保護フィルムは生分解性PLA素材が原料。



こうした努力が実を結び、Phone (1) は Eco Rating で 77 を獲得しました。2022 年末現在、スマートフォン部門での最高スコアは 85 です。

Eco Rating はスマートフォンの製造、輸送、使用、廃棄にわたるプロセス全体で環境に与える影響を評価して判定する、業界規模の基準です。





近接センサーと光セ
ンサーガasketフ
レーム:
バイオプラスチック



電源ボタン FPC フレーム:
バイオプラスチック



TransFlash ホール
プラグ
バイオプラスチック



光センサーホルダー:
80% ポストコンシュー
マーリサイクル プラス
チック



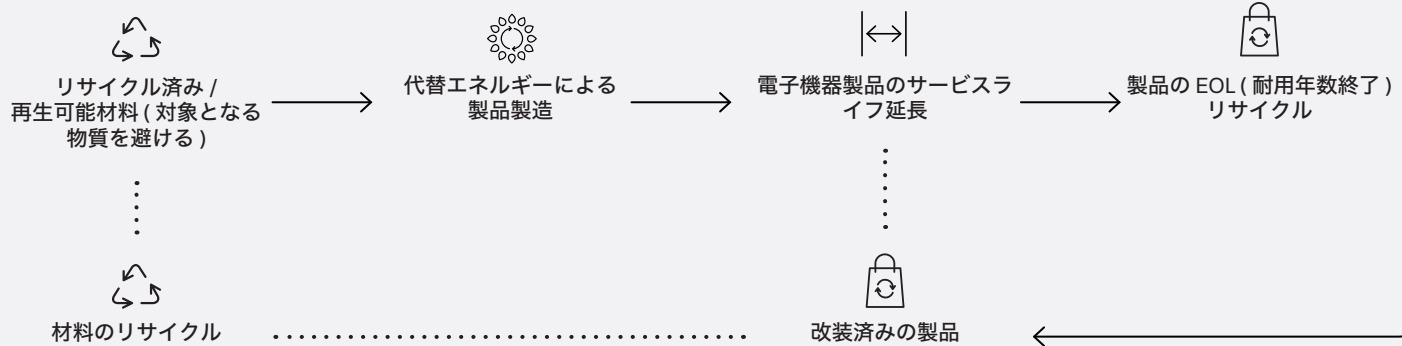
サイドキーフ
レーム:
A/B/C: バイオブ
ラシック

循環性



循環性

Nothing では従来型の“採取—使用—廃棄”のリニア経済モデルから、再生可能・リサイクル資源を可能な限り使用する循環経済モデルへの移行に努めています。最終的には地球から資源を採取せず、ゼロ・ウェイストの達成を目標としています。



リニアモデル

原則として未加工の原料を大量に投入する必要があります。原材料の採掘や精製は環境に害を与え、資源が激減し、労働者やコミュニティの健康や安全性を脅かすおそれがあります。

有害物質を含むデバイスは有害な製品サイクルの発端となり、その後のリサイクルが困難になります。

製品の交換により、資源やエネルギーの枯渇が加速化します。

スマートフォン製品の製造はエネルギー集約型であるため、その大半が化石燃料に依存する諸国で製造されています。

循環型モデル

リサイクル材料、再生可能材料への転換を図ると、純正材料への需要が減ります。環境やコミュニティにもたらす悪影響を減らすよう、責任を持って鉱物や繊維材料を調達します。

一部有害物質の利用が制限されると、リサイクルが容易に、かつ安全に行えます。詳細については[グリーンケミストリーの推進](#)をご覧ください。

製品が保守しやすくなり、耐久性が増すため、耐用年数が延びます。

当社では主要サプライヤーに対し、100%再生可能な電力の利用を求めています。詳細については[気候行動とカーボントランスペアレンシー](#)をご覧ください。

目標と進捗状況

2025 年の目標

当社製品で使用中の主要金属 11 種中 7 種はリサイクル材料を採用。

当社製品で使用するプラスチックの 80% はリサイクルまたは再生可能な材料を使用する。

当社製品の製品寿命を延ばし、トレードインプログラムを立ち上げ、製品リサイクルプログラムの対象地域拡大を図る。

2022 年現在の進捗状況と展望

100% リサイクルのスズはんだ、100% リサイクルのアルミニウムへの転換を完了。2023 年にはリサイクルスチール、リサイクル銅などの導入を予定。

Phone (1) で使用するプラスチックの 50% 以上を、リサイクルまたはバイオプラスチックのいずれかとする。2023 年には、次世代スマートフォンでのリサイクル / バイオプラスチックの利用比率を 80% まで高める。他の製品ラインでもリサイクルプラスチック / バイオプラスチックの使用比率を漸増させる予定。

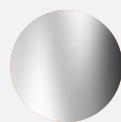
2023 年に一部地域限定でスマートフォンのトレードインプログラムを試行する予定。

年

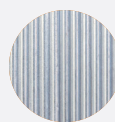
素材

2022 年まで

アルミニウム

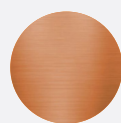


スズ



2023 年まで

銅

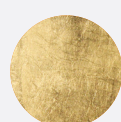


スチール

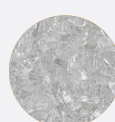


2025 年まで

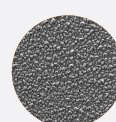
金



マグネシウム

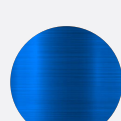


リチウム



検討継続

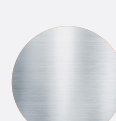
コバルト



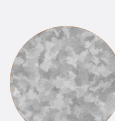
レアアース元素



銀



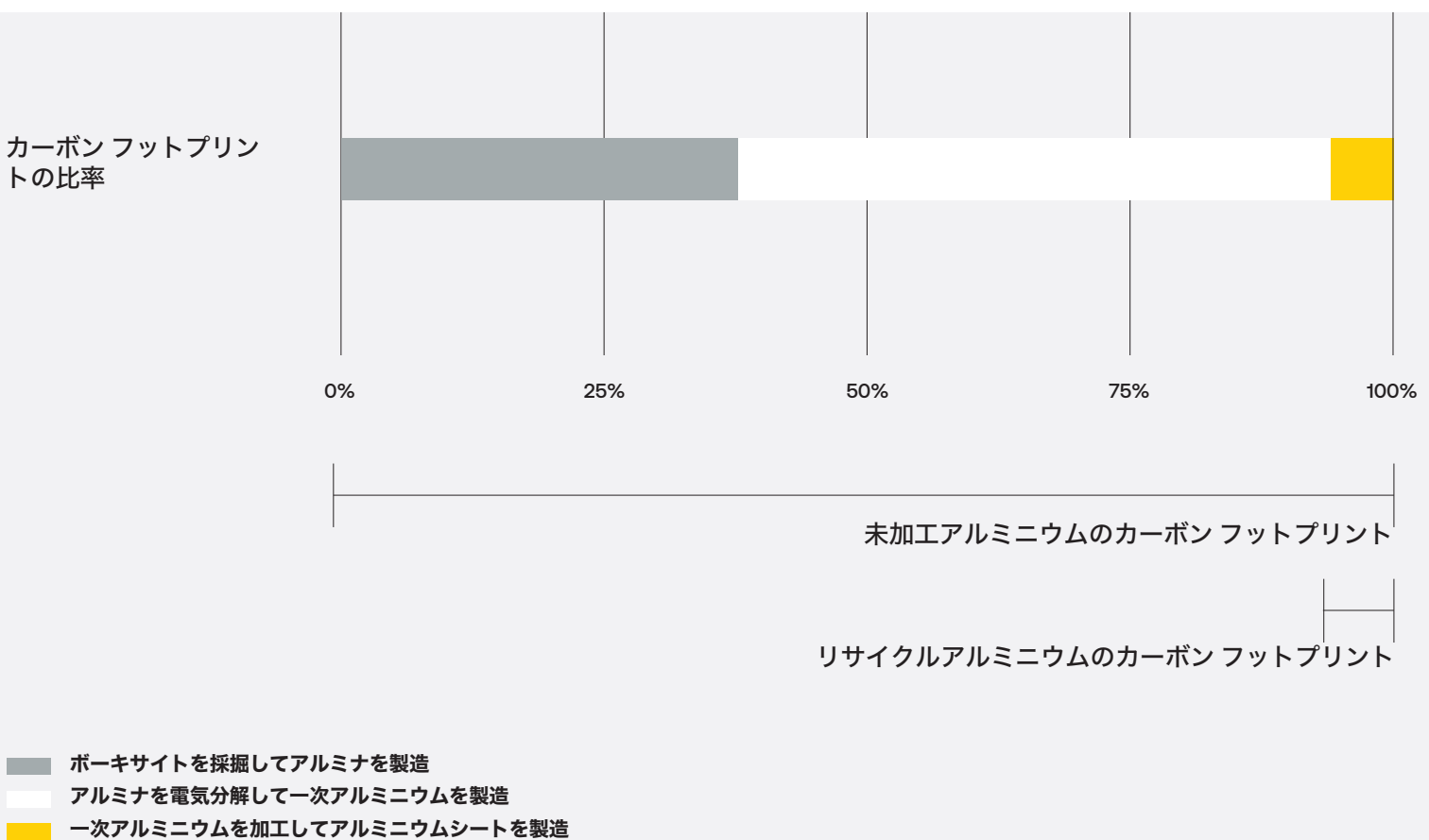
亜鉛

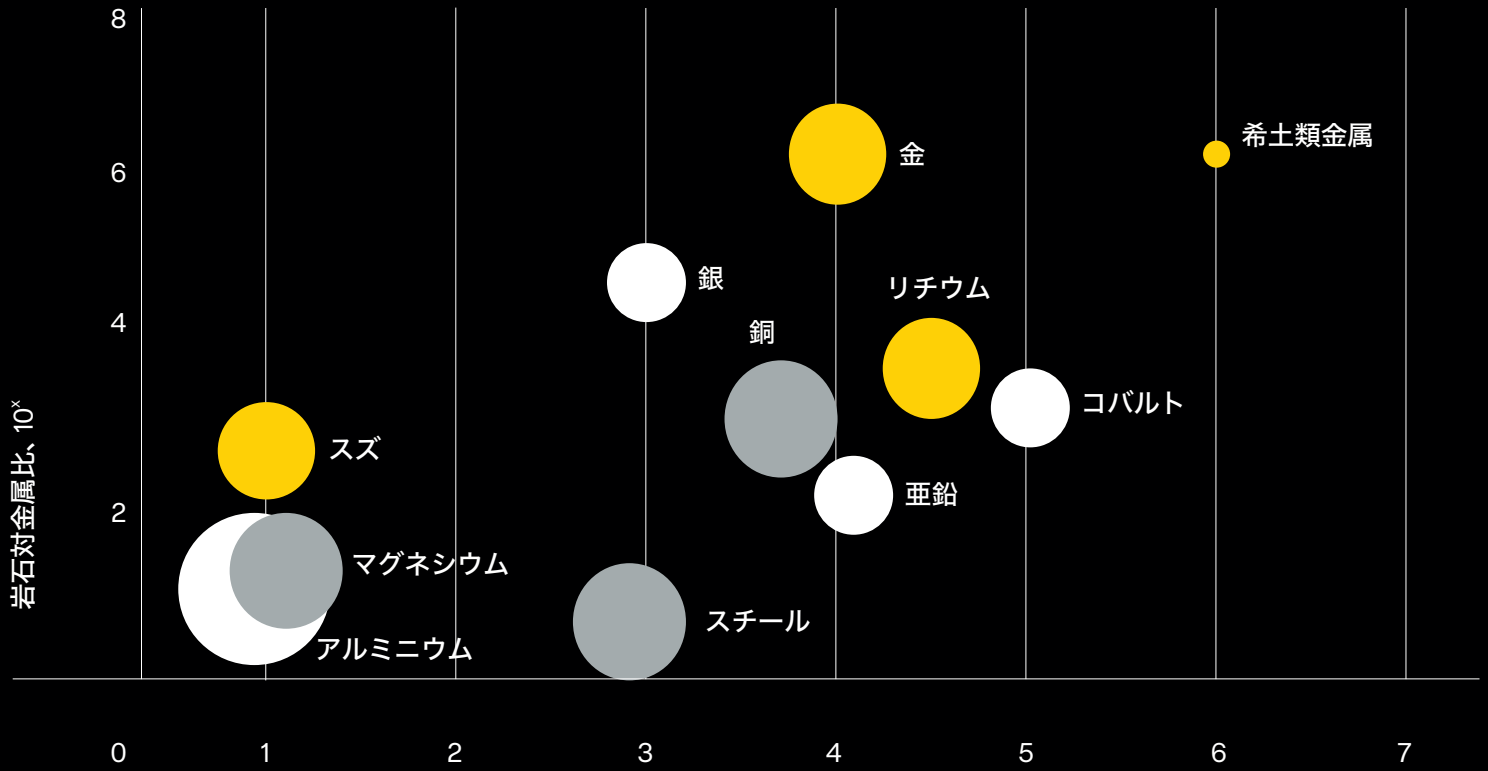


当社では環境への負担
が少ないリサイクル材
料や再生可能材料の採
用を進めています。

リサイクル金属

スマートフォンは通常、アルミニウム、マグネシウム、コバルト、タングステン、金など複数の金属で構成されています。こうした金属は採掘後、精製工程を経て取得されます。金属は製造工程で多くの資源を消費し、汚染物質が生じるほか、人権侵害に値する行為を招きかねません。今後の対策として唯一考えられるのがリサイクル金属の採用です。たとえばリサイクルアルミニウムに転換すると、アルミニウム製造における炭素排出量は90%削減できます。





リサイクルの難度 : 0 = 容易、7 = 困難。

○ 円の大きさ = 製品中の使用量

注：
岩石対金属比は研究文献のデータを典拠とする。

リサイクル難度レベルとはリサイクル材料を一般消費者向け電子機器に使用する難易度のこと
で、材料の信頼性、サプライチェーンでの入手
しやすさ、およびその他の要因などがある。

リサイクル金属の採用を検討するにあたり、当社では、どの金属元素からリサイクル金属を採用していくかを検討する必要に迫られました。リサイクル金属に移行する金属元素を決めた後、当該金属が環境に与える影響、リサイクル技術の成熟度合い、製品の製造で必要とされる量の3要素に着目しました。このほかサプライチェーンの機会や材料の信頼性も同時に検討し、最終的にはリサイクルアルミニウムとリサイクルのスズはんだをPhone (1) で使用することにしました。

リサイクルアルミニウムは適切なリサイクル工程を経ており、しかも新品と同等のパフォーマンスを発揮する上、無制限にリサイクル可能な資源です。中国のアルミニウムリサイクル工場で製造工程を視察し、複数回にわたる製品検査を終えた結果、リサイクルアルミニウムは当社製品の材料として使用できる水準にあることが立証されました。

製品寿命を終えた製品からアルミニウムを回収



溶解炉に再投入されるリサイクルアルミニウム



鍛造されたばかりのビレットを切断



さらに細かくカットしてスマートフォンの製造に適したアルミニウムに加工





リサイクルのスズはんだはリサイクルアルミニウムと同様のプロセスを経て採用しました。スマートフォンでリサイクルのスズはんだを使用する機会はアルミニウムほど多くはなく、新品と比較するとサプライチェーンの構築が難しく、技術面での問題点もあります。

当社製品のメインボードと回路基板のはんだ付けではすべて、リサイクルのスズはんだを使っています。製品のパフォーマンスに見合った最適なパラメーターを割り出すよう、Nothingの製造R&Dとハードウェア検査部門ではサプライヤーと共同で各種試験に熱心に取り組んできました。製造工程では目視確認やSOPなど様々な検証基準を導入し、当社の全製品を製造するあらゆる工場で、リサイクルのスズはんだが品質基準を満たしていることを確認しています。リサイクル金属に対する取り組みは今後も続きます。将来的には、部品やコンポーネントに使用されるスズはすべてリサイクルを使用するよう、サプライチェーンへの採用を引き続き進めていきます。

現在、Phone (1) で使用されている100%リサイクルのスズとアルミニウムはSCSからの認証済みです。

1

リサイクル材料の追跡可能なサプライチェーン構築

2

リサイクル材料の使用量を増やした製品の製造

3

100%リサイクル材料で製造した機器の認定を達成

リサイクルプラスチックか、 バイオプラスチックか

プラスチックはスマートフォンには欠かせない材料です。当社では使用済みリサイクルプラスチックやバイオプラスチックを可能な限り使用し、環境に与える影響を大幅に削減しています。

Phone (1) では、ライトストリップやワイヤレス充電器のフレームなど、50%を上回るプラスチック製コンポーネントの材料に使用済みリサイクルプラスチックやバイオプラスチックを採用しています。当社が使用するリサイクルプラスチックは、プラスチック製のボトルやビニール袋、CD など、家庭で毎日ゴミとして廃棄されるプラスチックが原料です。バイオプラスチックの原材料は食品以外の穀物を原料とするひまし油であるため、食糧の供給に影響を与えません。

業界の大半が依然として化石燃料に依存する中、Nothing はサステナブルへと舵を切る先駆者としての道を歩んでいます。その一方で、新たな試みがこれまでになかった課題を生んでいます。スマートフォンに使用するプラスチック製コンポーネントは、構造やパフォーマンスに関する独自の基準を満たす必要があります。透明プラスチックを使った Phone (1) の後部を設計する工程で、当社の真価が問われました。

当社の筐体担当エンジニアがデュポンや SABIC などプラスチックメーカーの専門家らと数か月にわたって検討した結果、射出成形での最適な技術パラメーター、リサイクル材料の比率を上げたプラスチックをどう使うか、リサイクルプラスチックやバイオプラスチックを使った筐体に移行するプロセスについての知見を得ました。



製品の耐久性

当社の最新世代モデルは優れたパフォーマンスと高い耐久性を誇る製品であるよう心がけています。製品の耐塵性や耐水性を高め、バッテリー寿命を延ばすなどの機能向上に加え、製品の修理や交換する手間を減らすサービスを提案しています。この点を踏まえ、当社では認定修理業者や郵送による修理品持ち込みなど、販売後の修理オプションを各種取り揃えています。

オンラインチュートリアルや純正パーツをオンラインで提供する「セルフサービス修理プログラム」も計画中です。処分品のフローをさらに有効活用する施策として、中古品の下取りサービスや整備済製品認定プロバイダー制度の展開を予定しています。

廃棄品のリサイクルと処分

電気電子機器廃棄物のリサイクルは循環経済で重要な役割を担っています。当社では各国のWEEE（電子機器廃棄物）規制、ならびに有害廃棄物の国境を越える移動及びその処分の規制に関するバーゼル条約を厳格に遵守しています。また、European Recycling Platform、Ecologic、Stichting Open など、信頼あるリサイクルの専門機関や非営利機関と提携関係を結んでいます。

Nothing 製品を販売する国や地域の3分の2で製品回収プログラムを展開し、使用済み製品を適切に廃棄するよう努めています。各種リサイクル・プログラムの将来的な拡大を計画中です。同時に製品のクリーンなライフサイクルを構築し、手始めに有害物質の使用制限やより安全なリサイクルの実施を検討中です。詳細については[グリーンケミストリーの推進](#)をご覧ください。

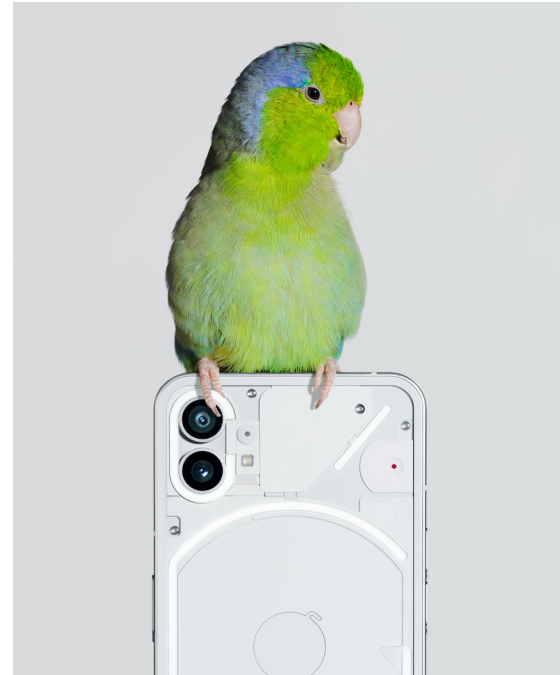


気候変動と カーボン トランスペアレン シー

気候変動とカーボン トランスペアレンシー

2022 IPCC 評価報告書では、気象危機への対応は今や喫緊の課題であるとの明確なメッセージを打ち出しています。

当社では、温室効果ガスの排出削減が大きな課題であると実感しています。事実、産業界全体が事業拡大と炭素排出量とは別の問題として分けて考えなければならないという圧力にさらされているという現状があります。成長著しい新興企業である当社は、業界を改革する原動力としての矜持を持ち、当社のブランドバリューのひとつでもある「改革者であれ」を実践する姿勢を明らかにしています。リソースと経験を積み上げて現状を開拓するには時間を要しますが、これまで達成してきた成果から、当社の方針が正しかったことが立証されています。



2025 年の目標

全製品にカーボン フットプリントラベルを貼付する。

主要サプライヤーが Nothing 関連業務を実施する際、100% 再生可能エネルギーを使用するよう求める。

2025 年より、全製品シリーズで世代別カーボンフットプリントの削減を徹底。

炭素除去プロジェクト、カーボンオフセットプロジェクトへの参加。

2022 年現在の進捗状況と展望

Nothing 全製品にカーボン フットプリントラベルを貼付済み。この取り組みは今後も継続し、計算モデルの最適化も進めていきます。

Ear (1) と Ear (stick) は 100% 再生可能電力で製造する。全製品で 100% 再生可能電力の利用を必須にする取り組みを進めています。

Ear (1) はカーボンニュートラルな製品です。当社ではサプライヤーと緊密な連携を図り、最先端の温室効果ガス排出削減ソリューションについての総合的な検討を進めています。

Nothing のサプライチェーン排出量のスコープ 1、2、3 は文書化が完了し、今後の二酸化炭素除去やカーボンオフセットに対する基本的姿勢が確立しています。

最先端のテクノロジー、再生可能エネルギーの活用、データの開示に対する透明性の高さ、質の高い炭素除去プロジェクトを通じ、当社は気候に与える影響を最小限に食い止めます。

1. バリューチェーン全体のカーボン フットプリントを開示。

当社では GHG プロトコルに基づき、事業活動とバリューチェーンに関連する GHG (温室効果ガス) 排出量を網羅的に把握し、算出しています。算出結果によると、当社が排出した温室効果ガスによる影響の 90% はバリューチェーンの上流 (材料の調達などのフェーズ) または下流 (製品使用のフェーズ) にあたります。

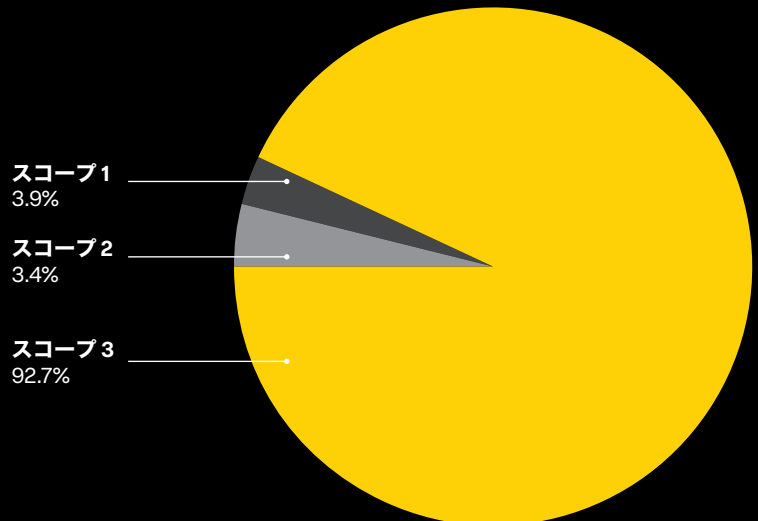
当事業所 (スコープ1および2)

2021 年、世界 5 か所で事業を展開していた当社は 2022 年、世界 8 か所、ストア 1 か所へと市場範囲を拡大させています。今後は事業拠点が広がる都度、当社が導入を予定している GHG インベントリの対象に追加していきます。

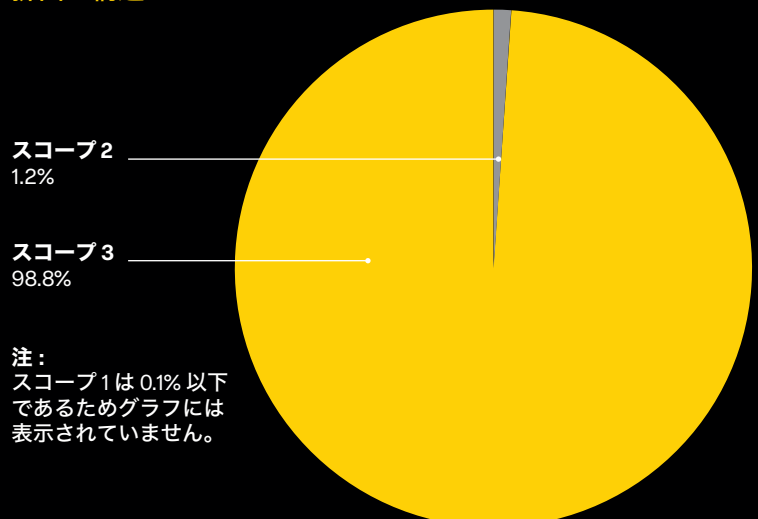
当社のバリューチェーン (スコープ3)

右のグラフで示すとおり、当社のカーボンフットプリントに最も大きな影響を与えているのが製品の製造工程です。材料の調達やサプライヤーでの製造もここに含まれます。当社のバリューチェーン排出量を算出する際、当社製品のカーボンフットプリントも算出基準に含めています。スコープ3の排出量データのカテゴリについては、[スコープ3インベントリをご覧ください](#)。

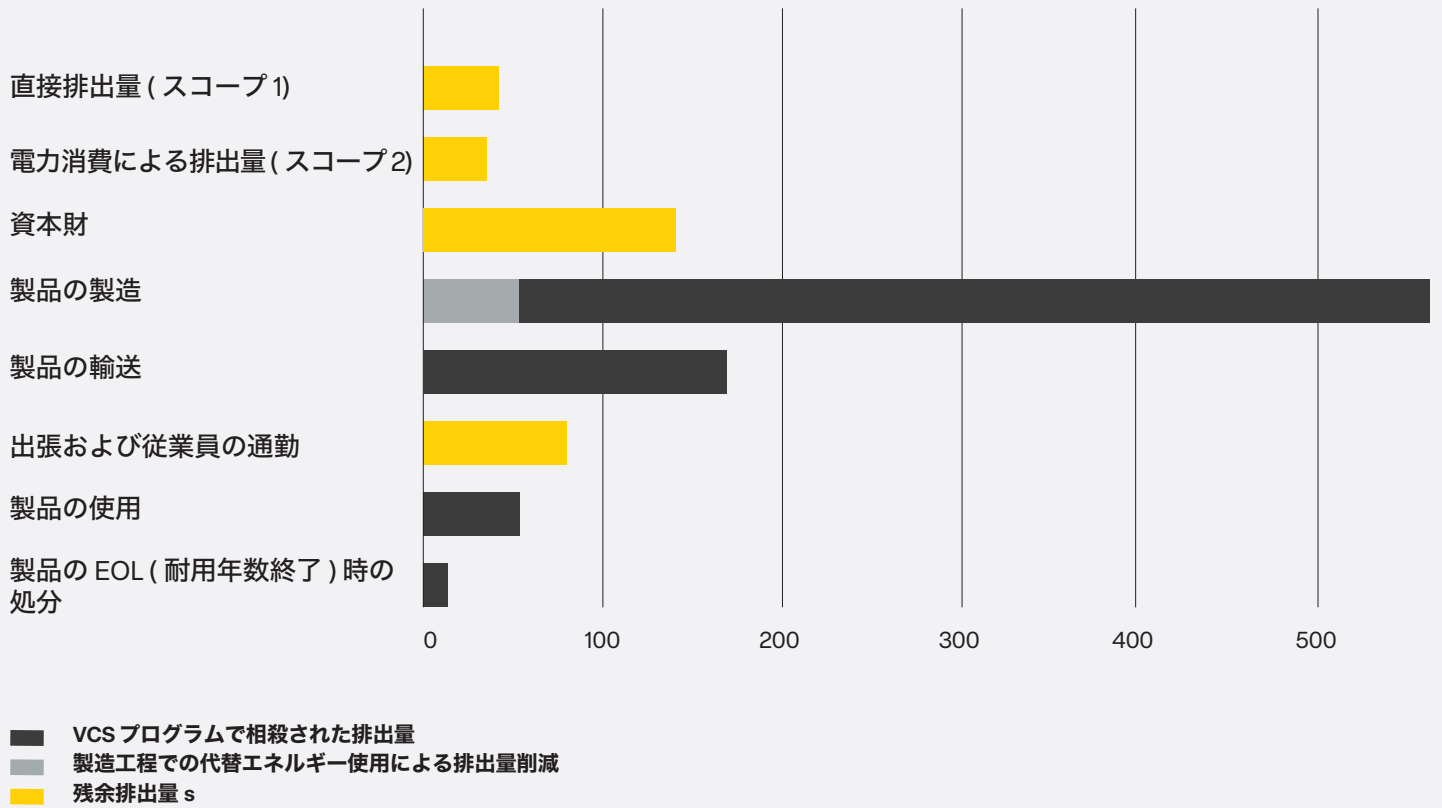
2021 年、Nothing サプライチェーンにおける温室効果ガス排出の構造



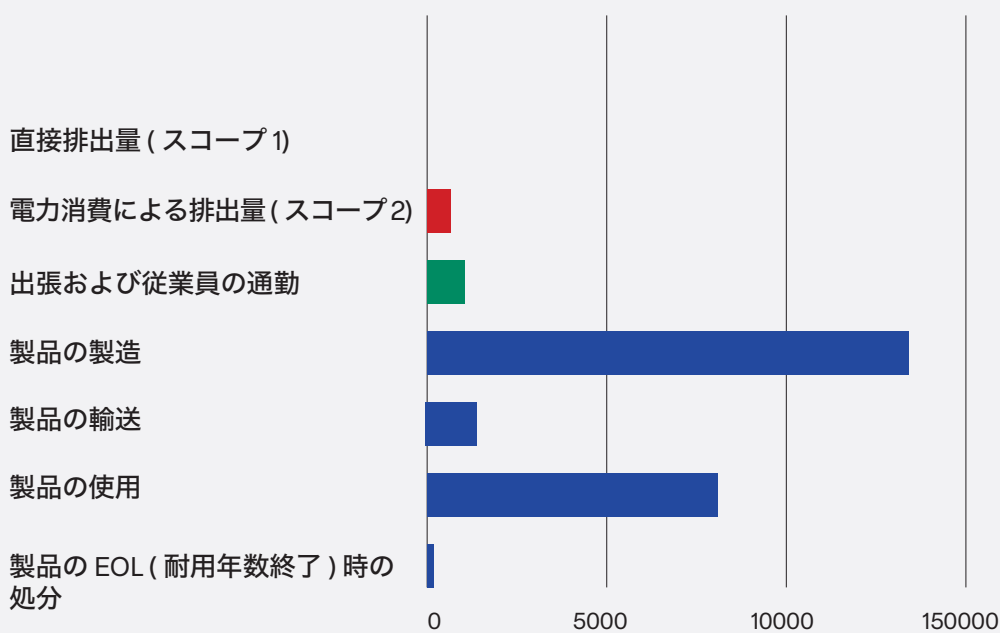
2022 年、Nothing サプライチェーンにおける温室効果ガス排出の構造



2021年 Nothing 企業組織全体のカーボンフットプリント



2022年 Nothing 企業組織全体のカーボンフットプリント



ライフサイクル全体のカーボン フットプリント 3.1 KG CO₂e

インド

Ear (2) SKU: A10600018
MANUFACTURE DATE:

IS 616/
IEC 60065

21
PAP

R-41234369
www.bis.gov.in

GENERIC NAME: EARBUDS PRODUCT MODEL: B155
COLOR: WHITE PRODUCT DIMENSIONS: (5.55X5.55
X2.2)cm INPUT (EARBUDS): 5V-0.07A INPUT
(CASE): 5V-0.9A OUTPUT (CASE): 5V-0.15A
RATED CAPACITY (CASE): 485mAh RATED CAPACITY
(EARBUD): 33mAh COUNTRY OF ORIGIN: CHINA
MAXIMUM RETAIL PRICE: RS. (INCLUSIVE
OF ALL TAXES) IMPORTED BY: ESSENTIALLY NOTHING
PRIVATE LIMITED, 5TH FLOOR, 05B102, TWO HORIZON
CENTRE, DLF PHASE 5, GURUGRAM, HARYANA, INDIA,
122002. IN CASE OF CONSUMER COMPLAINTS:
ESSENTIALLY NOTHING PRIVATE LIMITED,
5TH FLOOR, 05B102, TWO HORIZON CENTRE,
DLF PHASE 5, GURUGRAM, HARYANA, INDIA
122002. TOLL FREE NUMBER: 18002021232.
EMAIL: support.india@nothing.tech

Hi-Res
AUDIO
WIRELESS

NET QUANTITY: 1 UNIT

LIFECYCLE CARBON FOOTPRINT 3.1 KG CO₂E

FOR MORE INFORMATION, SCAN QR CODE



EU

UK
CA

SGS ENERGY EFFICIENCY

21
PAP

CE

Hi-Res
AUDIO
WIRELESS

PRODUCT NAME: Ear (2) PRODUCT MODEL: B155
FCC ID: 2AZEQ-B155 SKU: A10600017
HVIN: B155R; B155L. INPUT (EARBUDS): 5V-0.07A
INPUT (CASE): 5V-0.9A OUTPUT (CASE): 5V-
0.15A RATED CAPACITY (CASE): 485mAh RATED
CAPACITY(EARBUDS): 33mAh PRODUCT COLOR:
WHITE IC: 27102-B155. THIS DEVICE COMPLIES
WITH PART 15 OF THE FCC RULES. OPERATION IS
SUBJECT TO THE FOLLOWING TWO CONDITIONS: (1)
THIS DEVICE MAY NOT CAUSE HARMFUL
INTERFERENCE, AND (2) THIS DEVICE MUST ACCEPT
ANY INTERFERENCE RECEIVED, INCLUDING
INTERFERENCE THAT MAY CAUSE UNDESIRE
OPERATION. MANUFACTURER & UK REP: NOTHING
TECHNOLOGY LIMITED 80 CHEAPSIDE, LONDON,
ENGLAND EC2V 6EE. EU REP: NOTHING TECHNOLOGY
B.V. JAN PIETERSZ. COENSTRAAT 7,2595WP'S
-GRAVENHAGE, THE NETHERLANDS CAN ICES-
003(B) / NMB-003(B). MADE IN CHINA.
⚠WARNING REPRODUCTIVE HARM-
WWW.P65Warnings.CA.GOV

LIFECYCLE CARBON FOOTPRINT 3.1 KG CO₂E

世界全体

CE

21
PAP

R-C-nOt-B155

018-
220292

CCAM2LP1510T0

NOM
NYCE

PRODUCT NAME: Ear (2). PRODUCT COLOR: WHITE.
PRODUCT MODEL: B155. SKU: A10600019
INPUT (EARBUDS): 5V-0.07A INPUT (CASE): 5V-
0.9A. OUTPUT (CASE): 5V-0.15A RATED CAPACITY
(CASE): 485mAh RATED CAPACITY(EARBUDS):
33mAh. DESIGNED BY NOTHING TECHNOLOGY LTD IN
LONDON, UK. MANUFACTURED IN CHINA.

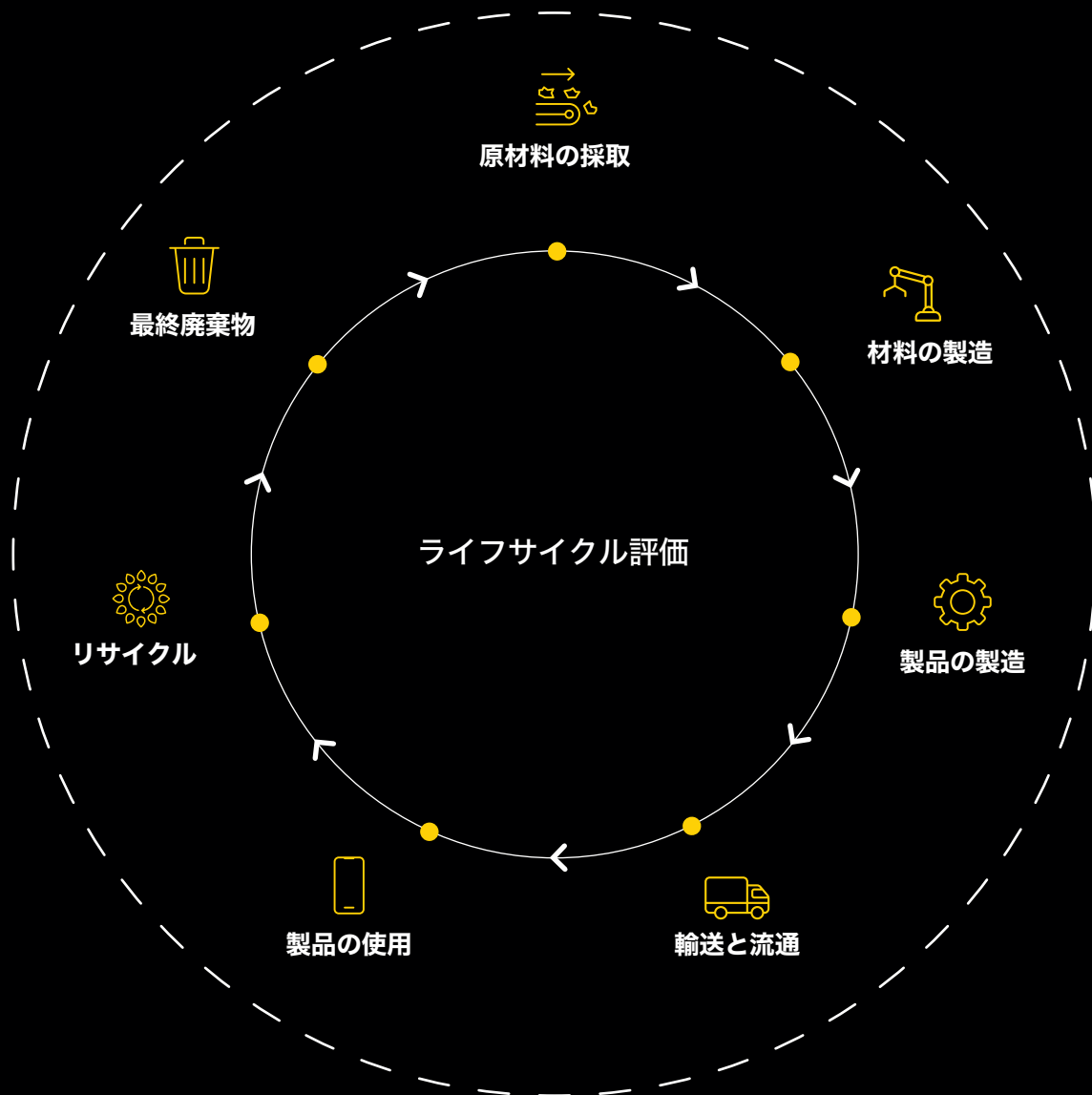
LIFECYCLE CARBON FOOTPRINT 3.1 KG CO₂E

Hi-Res
AUDIO
WIRELESS

消費者が適切な情報をもとに判断できるよう、当社では、カーボンフットプリントのデータは他の仕様と同様にパッケージに明記するべきだと考えます。2022年末現在、アクセサリを含めた6製品すべてにカーボンフットプリントのラベルが追加されています。この取り組みは今後も継続していきます。

製品のカーボン フットプリントはライフサイクル全体の温室効果ガスの総量を数値化したものです。原材料の調達から始まり、組み立て、製造、製品の輸送、利用、廃棄を終点とします。当社ではISO 14040、14044、14067 の各規格に準拠して製品のカーボン フットプリントを定量化しており、当社のデータはSGS、DEKRA、テュフ・ラインランドから認証されています。

製品のカーボン フットプリント報告書の内容が正確であるほど、意思決定で求められる製品ライフサイクル全体のデータ精度が高くなるため、当社では算出モデルの最適化を継続し、さらに多くの一次データを取り込むよう考えています。当社では長期的な視野に立ち、一般消費者向け電子機器のカーボン フットプリント算出に関連規格の設立に参画し、業界全体に広めていきます。



2. 当社では主要サプライヤーに対し、製造工程で100%再生可能な電力の利用を求めています。

気象危機を解決に導く上で欠かせないのは、化石燃料への依存を終わらせることです。バリューチェーン全体の排出量を削減させる上で、代替エネルギーの活用は大きな要因となります。高コストを伴う代替電力の導入は小規模な組織であるサプライヤーの負担になることを踏まえ、当社では Ear (1) と Ear (stick) の最終組み立てサプライヤー向けに I-REC (海外再エネ電力証書) を購入しました。この証書は、太陽光発電 101 MWh、低負荷水力発電 449 MWh 分に相当し、製品製造時の電力消費を相殺します。その結果、限界削減費用 447 tCO₂e を達成しました。

Nothing では、当社製品を製造する主要サプライヤー全社が 100% 再生可能エネルギーへの転換を達成するための取り組みを進めています。再生可能発電市場が成熟し、生産量が拡大する中、当社ではオンサイト発電、グリーンユーティリティプロバイダー、「グリーン電力証書と電力との統合」モデルなど、再生可能エネルギー源を開拓して、当社サプライヤーを支援していきます。

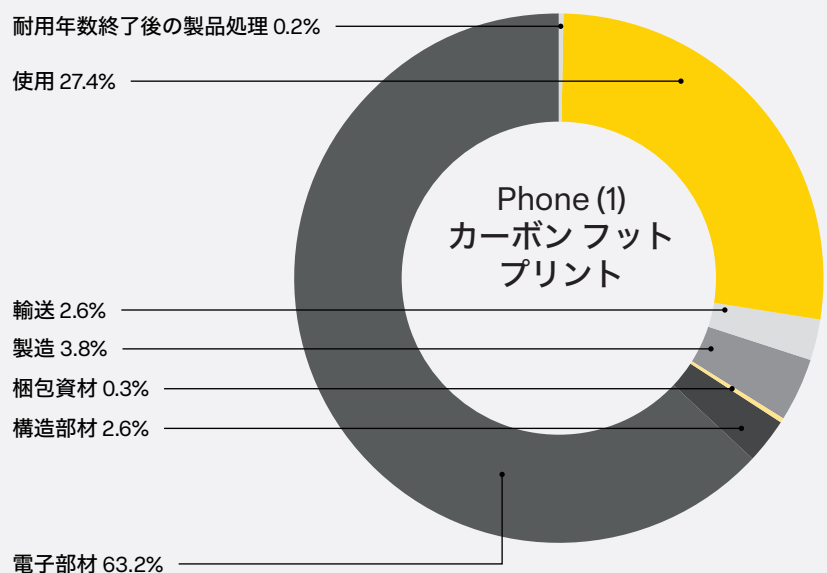
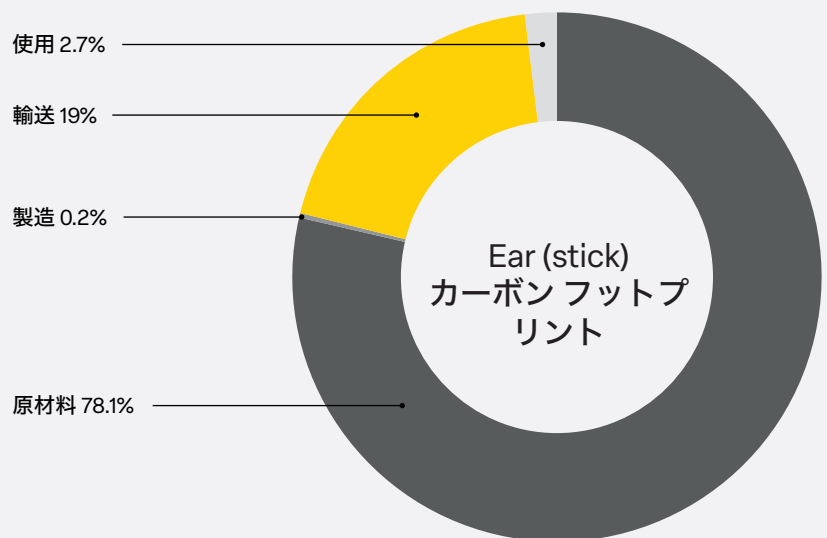
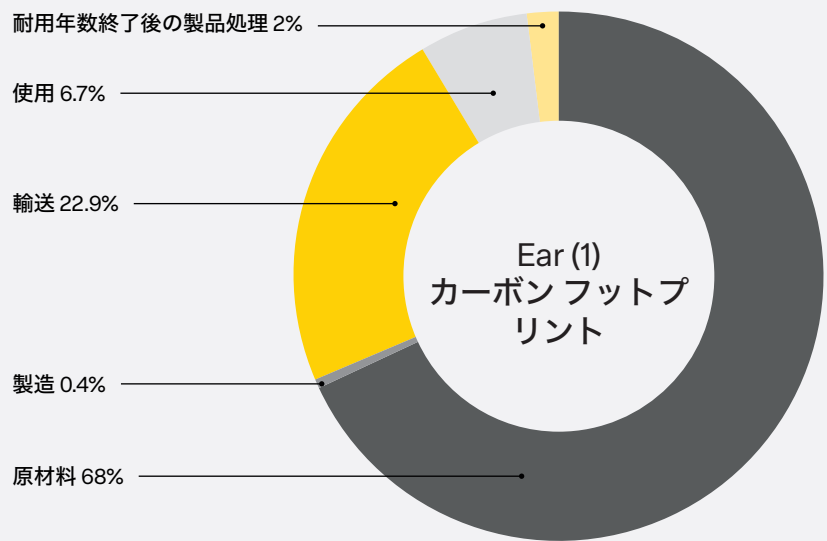


3. 炭素排出量の大幅な削減を達成するため、当社では常に新たな施策を検討しています。

当社イヤホンとスマートフォンの製品ライフサイクルにおける炭素排出量の分配状況を分析したところ、排出量の60～70%が原材料を供給する段階で生じ、以下、製品の輸送、製品の仕様がそれに続きます。そのため当社では、主力製品でリサイクル材料や再生可能材料を使用することにしました。Phone (1) ではすでに多くのリサイクル材料を取り入れ、目覚ましい成果を上げています。詳細については循環性の項をご覧ください。

また、電子部品の製造は一般消費者向け電子機器の排出量に最も大きな影響を与えています。チップなどを製造する上流電子部品サプライヤーのカーボンフットプリント削減は、技術面でかなりの負担が求められます。目標達成に向けての道は依然として長いものの、サプライヤーと幅広い協力関係を結んだ結果、双方が団結し、転機となる打開策が得られる機会が得られています。

製品輸送については、飛行機から船舶への輸送手段の移行を検討中です。状況が許せば、カーボンニュートラルなロジスティクスプロバイダーとの提携も視野に入れたいと考えています。低炭素への移行は画期的な取り組みを導入することで加速化できます。



4. 当社では、天然由来で質の高い二酸化炭素除去ソリューションへの投資を検討中です。

2022年に公開されたIPCC評価報告書では、世界平均気温を産業革命前と比較して摂氏で2°C確実に下げるか、それが不可能であれば1.5°C下げ、地球温暖化を食い止めるには、二酸化炭素除去は「必要不可欠だ」とあります。現在排出している二酸化炭素の量を減らすのも重要ですが、大気中に蓄積する二酸化炭素を除去することにも取り組まなければなりません。そのため、自然が自らの力で温室効果ガスを除去できるよう、対策を講じるべきです。

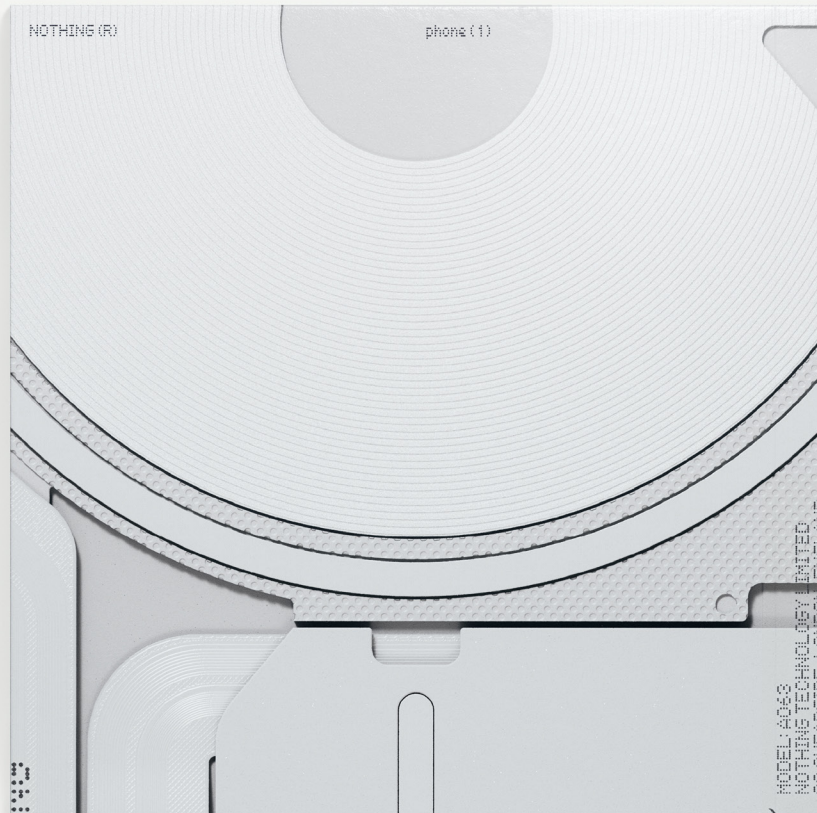
2021年、当社はVCSに準拠したカーボנקレジットを1,338t購入し、Ear (1)のカーボンフットプリントを相殺しました。

Verified Carbon Standard (VCS) プログラムは世界で最も普及が進んでいる、カーボンオフセットの購入プログラムです。厳格な評価基準に従って排出量削減プロジェクトの真正性と信頼性を検証します。

将来的には森林、湿地帯、草原といった天然の炭素吸収源の保護や発展を目的としたファンドをこれまで以上に活用していきます。当社では、こうした炭素除去プロジェクトへの直接投資や運用を優先課題とし、その後は専門研究機関との連携も実施します。



環境への 影響が少ない パッケージ



環境への影響が少ない パッケージ

サステナビリティに対する当社の取り組みは製品にとどまらず、パッケージの領域まできめ細やかに対応しています。製品パッケージは軽量でプラスチックを使用せず、リサイクルが簡単である一方、製品を保護する役割を果たし、開梱の際にストレスを感じさせないものであるよう求めています。



2025年の目標

コンパクトで軽量なパッケージデザインの採用。

スマートフォン製品ラインでプラスチックを使用しないパッケージの採用を達成後、他の製品ラインへと段階的に波及させる。

製品および梱包用パッケージではすべてリサイクル繊維かFSC 認証済みのものを使用する。

パッケージ上の印刷部分を減らし、100% プラントベース、またはカーボンネガティブな顔料を使用する。

2022年現在の進捗状況と展望

当社では新製品のパッケージをデザインする際、容量の効率化と軽量化に細心の注意を払っています。新しい世代の製品が登場するたび、パッケージが環境に与える影響がさらに減るようにと考えています。

Phone (1) のパッケージでは、これまで段ボール箱を包んでいたプラスチックフィルムの使用を取りやめ、パッケージからプラスチック素材を一切無くす方向へと進んでいます。

Phone (1) を例に挙げると、パッケージボックスの40%はリサイクル繊維を使用しています。2023年にはパッケージでのFSC 認定繊維の使用比率を段階的に増やしていく予定です。

2023年には製品パッケージにバイオインクの採用を予定しており、海藻由来のインクなど、新世代のカーボンネガティブインクの調査研究が進められ、適宜導入されます。

1. ゼロプラスチック

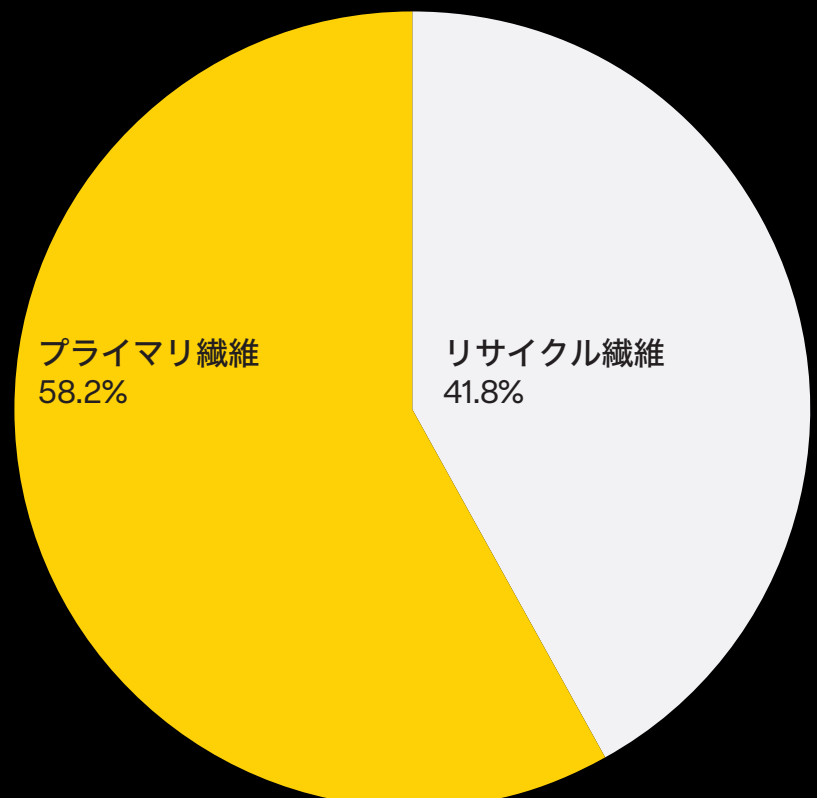
Phone (1) はプラスチックフィルムでのラッピングではなく、シングルユースの紙製シール材でパッケージされています。このデザインに変更すると開梱が楽になるだけでなく、プラスチックの使用量を合計 1.6 トン程度削減できます。今後は全パッケージでこのデザインが採用されます。交換が難しいプラスチック製部品については、それに代わる繊維素材がないか調査中です。ただ、現在市場に流通しているソリューションには不十分な点がいくつかあります。現在スマートフォンは産業用コンポストグレードで生物分解が可能な PLA フィルムで梱包しています。

2. 環境に配慮した責任ある繊維素材の使用

環境に与える影響は繊維によって、また、繊維の原材料によって違ってきます。一般的にはリサイクル繊維が理想的で、続いて竹のバージン繊維（バガスなど）、その次が木のバージン繊維です。材料を採用する際はこの優先順位に従います。Phone (1) を例に挙げると、リサイクル繊維の使用比率を 40% まで高めました。また、責任を持って管理している森林由来である FSC 認定繊維材料の比率も段階的に高める予定です。

2023 年以降はリサイクル繊維を原料とする配送用ボックスや、生分解性素材の衝撃吸収型梱包フォームなど、輸送用パッケージでリサイクル材料や、環境に対する責任を果たす材料を利用する方向に進む予定です。また当社のストアでも、リサイクル繊維を原料とするパッケージを選ぶよう検討しています。

Phone (1) 梱包材で使用する繊維の比率



3. 印刷用インクの使用基準

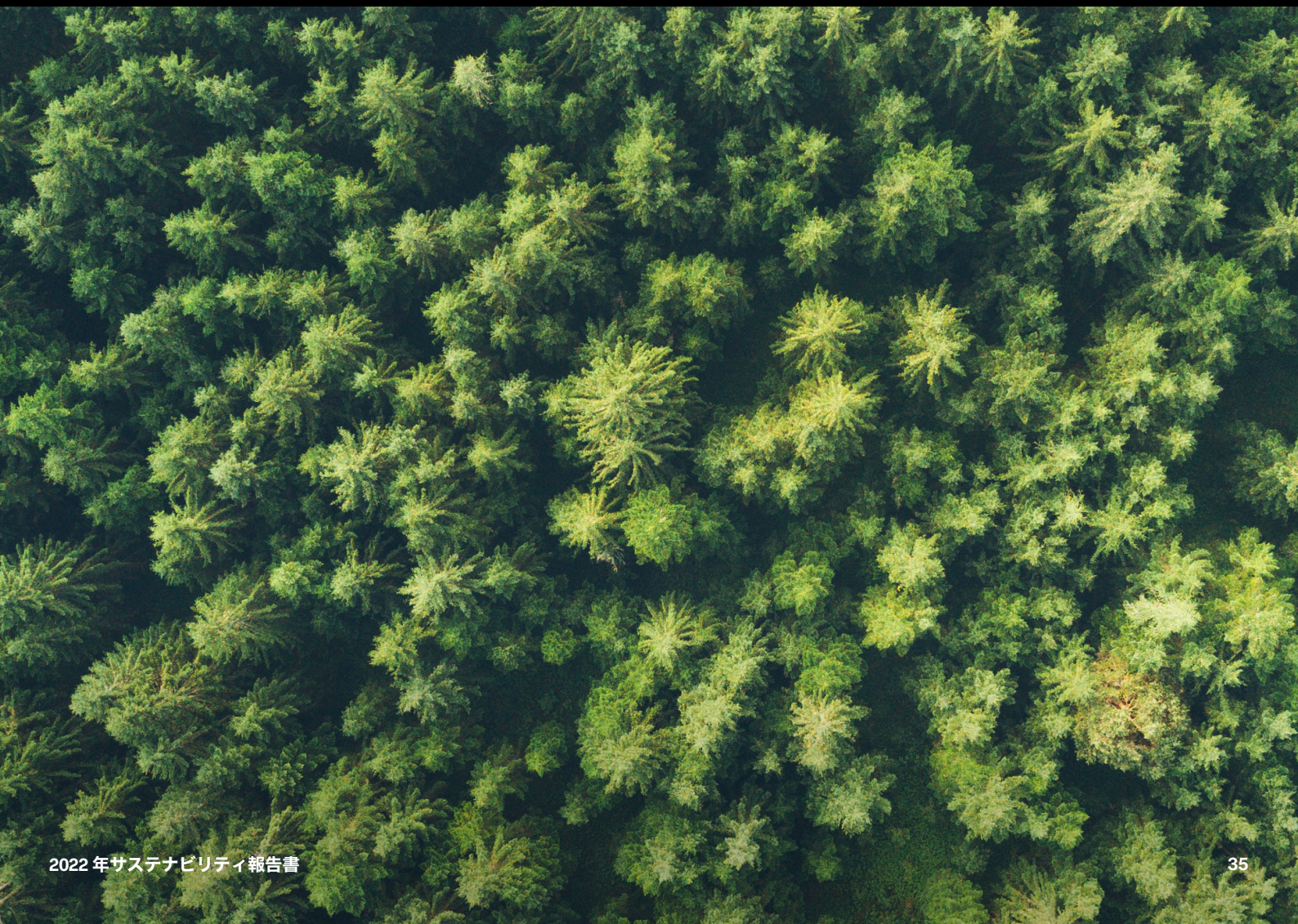
パッケージには必要最小限の内容を印刷し、使用するインクの量を減らす目標を掲げています。当社が使用するインクは化石燃料由来のものから、大豆インクなど、野菜由来のものへと移行していきます。

大豆インクは揮発性有機化合物 (VOC) を大気に放出しない上、紙から簡単に除去できるため、リサイクルしやすくなります。カーボンネガティブな海藻由来のインクなど、将来有望な印刷用インクの検討も進めています。

パッケージに対する当社の要求事項は Nothing Packaging Sustainability Guideline で詳述しており、当社のパッケージに携わるデザインチームおよびサプライヤーは本ガイドラインで定めた要件を遵守するよう求めています。



グリーン ケミストリーの 推進



グリーンケミストリーの推進

安全で環境に配慮した製品作りでは、製品の製造、使用、リサイクルにいたる、あらゆるプロセスで使用する化学物質を厳格に管理する必要があります。当社では厳格な化学薬品管理方針を実施し、当社製品やその製造プロセスで使用されている化学物質を逐一特定しています。また、法規制を上回る厳格な基準を社内で運用し、サプライヤー、従業員、一般消費者にとって最大限安全な環境を確保しています。



2025年の目標

製品で使用中の化学薬品データベースを構築し、データ件数1万件を当初の目標とする。

サプライチェーン全体で Nothing Restricted Substance Management Standards の準拠を促し、サプライヤーによる制限物質の使用を禁じる誓約書への署名を全サプライヤーに求める。

2022年現在の進捗状況と展望

本プロジェクトはすでに始動しており、サプライヤーの材料開示システムは2023年中に正式に立ち上がり、徐々に改善が加えられていきます。

Nothing Restricted Substance Management Standards が改訂され、主要 Tier-1 サプライヤーは誓約書に署名し、同書で示した基準を満たしています。

当社のソリューション

一般消費者向け電子機器は様々な材料を複合的に使用するため、無数の化学物質が検出されます。製品に存在する化学物質を包括的かつ網羅的に把握できるよう、当社ではサプライヤーが使用する材料の組成を全面的に開示するよう求め、材料の開示に関する体系的なルールを確立させています。

規制物質の管理については必ず、当局より厳格な規制を実施していると自負しています。

当社では2022年、RoHS指令、REACH規則、POPs(残留性有機汚染物質)、およびその他国内規制制度に対応するよう、Nothing Restricted Substance Management Standards(QM-BZ-0301)(以下、本報告書では「当社規格」の短縮名を使用します)を改定しました。当社ではPVC、赤リン、多環芳香族炭化水素(PAH)、三酸化アンチモン、ベリリウムおよびその化合物、および臭素系・塩素系難燃剤(BFRおよびCFR)の使用を優先して禁止しています。

Nothing Restricted Substance Management Standardsには、以下についての定量的な要件を詳細に記しています。

5.1 一般規則

5.2 梱包資材管理規則

5.3 バッテリー管理規則

5.4 プロセス管理規則

5.5 肌に接する材料向け管理規則

RoHSとはRestriction of Hazardous Substancesの頭文字で、電器電子機器における有害物質の使用を制限し、環境と公衆衛生を保護するEU指令です。

REACHとはRegistration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicalsの頭文字で、EU域内で製造、販売、輸入されるあらゆる製品や部品に対し、一部化学物質の使用を制限するEU規則です。

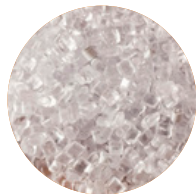
Nothingでは当社規格の導入に向けてリソースを投入し、費用負担額を増額しています。たとえば電装品にCFRやBFRを添加すると発火が防止できますが、製品の使用中に有害な化学物質を放出します。こうした有害な化学物質は地球環境や食物連鎖に蓄積し、最終的には人体に害を及ぼす原因となります。そのため当社では、リン化合物や無機鉱物といった、安全で環境に配慮した難燃性物質を使用するようサプライヤーに要請しています。

制限物質に対する他社の規制方針とは異なり、当社では前述した当社規格を一部製品ではなく全製品ラインで展開しています。

化学物質

有害物質の除去および制限

ポリ塩化ビニル (PVC)



当社では全製品で PVC を除去しました。結線によく使われている PVC は、製品の製造時、使用中、廃棄時に人体や環境に害を及ぼす危険があります。

多環芳香族炭化水素 (PAH)



当社では、人の肌に接するプラスチック部品で PAH を除去しました。PAH はプラスチックによく含まれている化学物質で、肌と接触するとガン発症の原因となるおそれがあります。

三酸化アンチモン



当社では、全製品で三酸化アンチモンの使用を禁止しています。世界保健機関の外部組織、国際がん研究機関 (IARC) は三酸化アンチモンを、人に対する発がん性が疑われる Group 2B の化学物質に分類しています。三酸化アンチモンは難燃剤としてよく結線に添加されています。

ベリリウム



当社では、結線やスイッチなどの電子部品でベリリウムの使用を中止しました。ベリリウムへの接触はベリリウム中毒の原因となるおそれがあります。

塩素系難燃剤および臭素系難燃剤 (CFR および BFR)



当社では、全部品を対象に 2 種類の難燃剤の使用を除去しました。CFR と BFR は環境や人体に長期間蓄積し、深刻な害を及ぼすおそれがあります。

赤リン



ハロゲン系難燃剤を除去した後、当社では次のステップとして、難燃剤では赤リンに代わって有機リン酸を使用するよう求めました。赤リンには毒性があり、可燃性物質でもあります。

一般消費者向け電子機器製品が人々の暮らしに浸透するにつれ、清潔で使いやすいデバイスへの要望が、特にウェアラブル端末で増えています。当社ではアレルゲンとして知られるアクリレート¹の代替品候補を検討中で、現在は各種研究機関と連携し、新たな抗菌性素材の開発を進めています。

当社では研究開発から販売まで、製品サイクルのあらゆるフェーズをきめ細やかに追い、当社規格の適切な導入を確認しています。トラッキングのプロセスも構築し、フォローアップにも努めています。



ステップ1 製品開発

当社では開発段階でグリーンケミストリーの方針に従い、各国規制の最新情報を入力し、新素材の研究に努めています。Nothing Restricted Substance Management Standards は適宜速やかに更新しています。



ステップ2 製品材料の選定

当社規格は全サプライヤー候補に通知し、確認のため関連認証制度の取得を要請しています。



ステップ3 誓約書への署名

当社では、サプライヤーが各自、Supplier's Commitment to Not Use Restricted Substances に署名し、Substance Declaration Form および Material Composition Declaration に必要事項を記入していることを確認しています。



ステップ4 入荷材料の検査

Nothing、または信頼できる第三者機関が、材料に関する様々な検査を実施しています。材料が要件を満たしていない場合、当社はサプライヤーに返却し、必要に応じて是正措置を講じるよう要請します。



ステップ5 プロセスコントロール

当社では、製造プロセスで使用する予備材料のスクリーニングと検査を実施し、当社規格を満たしていることを確認しています。



ステップ6 出荷時検査

当社では、出荷する製品の抜き打ち検査を実施し、当社規格の要求基準を満たしていることを確認しています。

持続可能な サプライチェーン



持続可能な サプライチェーン

サステナビリティに対する目標を達成し、幅広い改革を進めるため、当社はサプライチェーンと緊密な連携を取る必要があります。具体的に言うと、当社のビジョンと目標を明確に伝え、リソースと支援を提供し、サプライヤーのパフォーマンスは常に追跡し、継続的な改善を促しています。



2025年の目標

サプライヤー向けに一連のサステナビリティ方針を導入し、定期的に評価して最新の進捗状況を把握する。

主要サプライヤーの製造部門ユニット単位での水の消費量削減。

主要サプライヤーの埋め立てによるゴミ投棄ゼロ達成。

信頼のおける鉱物サプライチェーン監査を実施し、Nothing紛争鉱物報告書を定期的に発行して、精錬所や精製所のリストを公開する。

2022年現在の進捗状況と展望

当社の第1期サステナビリティ方針が始動しており、内容を継続的に更新してサプライヤーの向上を促しています。

主要工場を対象に、雨水と廃水のリサイクルプロジェクトの試行を検討中です。

当社主要サプライヤーの一部がすでに、埋め立てによるゴミ投棄ゼロの目標を達成しています。この取り組みは今後も支援し、米国認証機関 UL の廃棄物ゼロ認証を取得するようサプライヤーに奨励していきます。

当社の主要 Tier-1 サプライヤーが紛争鉱物を使用しないよう、責任を持って対応しています。

持続可能な方針

当社のサプライチェーン方針は、環境、労働安全衛生、持続可能な資源、制限物質管理、責任ある鉱物供給、以上5つの側面をカバーしています。

環境に関わるセクション



温室効果ガスの
排出管理



水および廃水管理



固形廃棄物管理



排出ガス管理

環境問題について言うと、当社サプライヤーは基本的な遵守要件を満たすだけでなく、原材料汚染削減を自発的に取り組む総合的な管理システムを構築するよう求めています。2022年現在、当社の Tier-1 サプライヤーの間で環境規制に違反するインシデントは発生しておらず、100%が ISO 14001 EMS 認証を取得しています。幸先のいいスタートを切りましたが、当社では主要サプライヤーに対し、リソースのリサイクル、水再使用率や廃棄物のリサイクル転換率の向上を支援することも検討中です。

現在の Tier-1 サプライヤーは労働安全衛生管理に関する ISO 45001 または SA 8000 認証を取得しています。一部サプライヤーは、レスポンスブル・ビジネス・アライアンス (RBA) の Validated Assessment Program (VAP) を修了しています。このような第三者機関評価から、サプライヤーが当社規格を遵守しているかが確認できます。

持続可能な資源について言うと、当社では、金属、プラスチック、繊維の主要3素材の利用に関する仕様書を公開しています。同仕様書では、当社が環境への負担が少なく、責任を持って調達した材料を使用する優先順位について述べ、サプライチェーン全体で期待することを明確に伝えています。

当社では責任を持って調達した原材料を全製品で使用し、特に紛争鉱物の使用を回避するよう努めています。当社サプライヤーには紛争鉱物不使用に関する誓約書への署名を求めています。2022年現在、主要 Tier-1 サプライヤーは同誓約書への署名を完了しています。サプライヤーは鉱物資源について独自に精査し、紛争鉱物報告テンプレート (CMRT) および拡張鉱物報告テンプレート (EMRT) を定期的に更新して、調達先である精錬業者と精製業者の状況を確認しています。Ear (stick) および Phone (1) の最終製造者は本手続きを導入し、要件を満たした CMRT を提出済みです。

付属書

付属書 A: 目標の方法論

評価基準 2:

プラスチック：当社製品で使用するプラスチックの80%はリサイクルまたは再生可能な材料を使用する。

この目標は、当社スマートフォン製品でプラスチック部品の80%超にバイオプラスチックと再生資源のいずれかを採用しているものに適用します。

評価基準 6:

主要サプライヤーが Nothing 関連業務を実施する際、100%再生可能エネルギーを使用するよう求める。

この目標における主要サプライヤーとは、最終組み立てに携わる Tier-1 サプライヤーを指します。

評価基準 8:

コンパクトで軽量のパッケージデザインの採用。

この目標では、容積の効率化と重量の効率化達成の基準として Phone (1) を採用しています。

パッケージ容積の効率化 =

製品の容積

パッケージ容積

パッケージ重量の効率化 =

製品重量

パッケージ重量

評価基準 10:

製品および梱包用パッケージではすべてリサイクル繊維か FSC 認証済みのものを使用する。

この目標は製品のパッケージボックスと出荷用ボックスについて言及しています。

付属書 B: 温室効果ガスの排出

Nothing 温室効果ガス排出インベントリ

適用範囲	排出源	2021 GHG 排出量 (tCO ₂ e)	2022 GHG 排出量 (tCO ₂ e)
スコープ 1: 直接排出		43.20	10.34
化石燃料の燃焼による排出	該当する排出源なし	—	—
一時的排出	事業所の廃水処理におけるメタンの漏出	23.92	10.34
	HFC – 32	19.28	—
プロセス排出	該当する排出源なし	—	—
スコープ 2: 電力消費に伴う排出		37.00	275.52
エネルギー (ロケーション基準)	エネルギー (中国)	24.27	173.72
	エネルギー (英国)	4.93	24.43
	エネルギー (インド)	7.59	76.82
	エネルギー (スウェーデン)	0.21	0.55
スコープ 3: バリューチェーン全体での排出			
	オフセット前	976.03	22821.86
	製品のオフセット	-738.33	—
炭素総排出量 (オフセット前)		1056.24	23107.91
炭素総排出量 (オフセット後)		317.91	

スコープ3 インベントリ

GHG プロト コル カテゴリ	2021 GHG 排出量 (tCO ₂ e)	2022 GHG 排出量 (tCO ₂ e)	排出量算出の方法論
購入した製品や サービス	504.35	13759.06	本排出カテゴリには製品の製造で使用される原材料の調達やサプライヤーの製造工程で排出される温室効果ガスのほか、採用する排出量の原単位が製造から出荷まで(クレイドルトゥーゲイト)を基準とする場合、事務所で購入した用紙の製造で排出された温室効果ガスも含まれる。
資本財	142.16	11.72	本カテゴリには主に、採用する排出量の原単位が製造から出荷まで(クレイドルトゥーゲイト)を基準とする資産や設備(冷蔵庫、コンピューターなど)の調達に伴う排出量が含まれる。2021年は今後5年で必要となる資産や設備をまとめて購入したため、本カテゴリにおける2021年の排出量は他の年と比べて多い。以降、排出量は大幅な減少を示すとみている。
燃料およびエネ ルギー関連業務	9.65	57.14	燃料およびエネルギー関連業務(スコープ1または2に含まれない)には購入済み電力上流の排出量が含まれるが、輸送と流通(T&D)カテゴリの減少(使用するエネルギー別)はスコープ2に含める。
上流リース資産	該当せず	該当せず	当社はその他関係者の資産をリース供与されていない。
上流の輸送およ び流通	170.16	654.23	本カテゴリには主に、組み立て担当サプライヤーが組み立てた製品を倉庫まで輸送し、その倉庫から販売拠点まで輸送する際の排出量が含まれる。
生成された 廃棄物	4.54	0.87	本カテゴリには主に、事業所の廃棄物を燃焼した際に排出されるガスが含まれる。
出張	26.19	150.20	本カテゴリには主に、飛行機、高速鉄道、車両での移動、および出張中に使用するホテルの排出量が含まれる。
従業員の通勤	54.93	242.60	本カテゴリには主に、電動輸送機器、一般車両、地下鉄を利用して通勤する従業員の排出量が含まれる。

スコープ3 インベントリ

GHG プロト コル カテゴリ	2021 GHG 排出量 (tCO ₂ e)	2022 GHG 排出量 (tCO ₂ e)	排出量算出の方法論
販売済み製品の 処理	該当せず	該当せず	当社製品は一般消費者または再販業者に直販するため、本カ テゴリは該当しない。中間品は販売されていない。
下流の輸送およ び流通	該当せず	該当せず	当社製品の輸送サービスは Nothing が提供している。輸送に 伴う排出量は上流の輸送および流通カテゴリに含まれる。そ のほか、本カテゴリに該当する排出はない。
販売済み製品の 使用	49.51	7860.98	本カテゴリは主に、報告書発表年の間に販売したデバイスの 製品寿命中における電力使用に伴う排出量が含まれる。
販売済み製品の EOL (耐用年数終 了) 時の処分	14.56	57.46	本カテゴリは主に、報告書発表年の間に販売したデバイスの 耐用年数終了後の処分に伴う排出量が含まれる。 本カテゴリの予測値算出にあたって作成したモデルでは、デ バイスの 4 分の 1 が埋め立て廃棄物として処理され、残りは 耐用年数終了後にリサイクルされると想定。
下流リース資産	該当せず	該当せず	当社では資産を社外にリースしていない。
フランチャイズ	該当せず	該当せず	当社ではフランチャイズを実施していない。
投資	該当せず	該当せず	当社では株式投資、プロジェクトへの長期的な資金投入、 債券の発行は行っていない。

排出量の原単位と排出係数

年	出典
2022 暦年	<p>下記の 2021 暦年については、以下の最新データを踏まえてはいない：</p> <ul style="list-style-type: none">• China Products Carbon Footprint Factors Database、オンラインで入手可能 :lca.cityghg.com• IEA 2022, 国際エネルギー機関 排出量原単位• 英国 BEIS 温室効果ガスに関する報告書 :2022 年排出係数• LCA/PCF 調査関連 :Chinese Life Cycle Database-China-ECER 0.8
2021 暦年	<ul style="list-style-type: none">• LCA/PCF 調査関連 :Ecoinvent v3.7 インパクト評価法付きデータベース IPCC AR5 GWP100、有機物から派生した炭素および土地利用による変化も含む• LCA/PCF 調査関連 :European Life Cycle Database• 英国 BEIS 温室効果ガスに関する報告書 :2021 年排出係数• IEA 2021, 国際エネルギー機関 排出量原単位• 中華人民共和国生態環境部、Notice on the Key Work Related to the Management of Corporate Greenhouse Gas Emission Reporting in 2022• 中華人民共和国国家発展改革委員会 (NDRC)、Guidelines for Accounting and Reporting of Greenhouse Gas Emissions for Electronic Equipment Manufacturers• 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) (低位発電量 (NCV) ベース) 2006 年

付属書 C: 証明書



付属書 C: 証明書

Statement of Conformity CN22/0000988

Greenhouse Gas Verification Statement

The inventory of Greenhouse Gas emissions in
01 Jan. 2021 to 31 Dec. 2021 of

Nothing Technology Limited.

Business address: 11 Staple Inn, London, WC1V 7QH, United Kingdom
Organization boundary: Detail organization boundary information has been listed in
Annex, for multi-site statement

has been verified in accordance with ISO 14064-3:2019 as meeting the requirements of

ISO 14064-1:2018

Direct Emissions [Category 1]	43.20 tonnes of CO ₂ e
Indirect Emissions from Imported Energy [Category 2]	37.00 tonnes of CO ₂ e
Indirect Emissions from Transportation [Category 3]	81.11 tonnes of CO ₂ e
Indirect Emissions from Products Used by An Organization [Category 4]	156.59 tonnes of CO ₂ e
Indirect Emissions Associated with The Use of Products from The Organization [Category 5]	[be determined as non-significant indirect emissions and not quantified]
Indirect Emissions from Other Sources [Category 6]	[be determined as non-significant indirect emissions and not quantified]
Total Emissions Quantified	317.91 tonnes of CO₂e

Authorised by

DATE: 06 May 2022

SGS CSTC Standard Technical Services Co., Ltd. Knowledge
Country Headquarter 19/F Century Yuhui Mansion, No.73, Fucheng Road,
Beijing, China 100142

Several statements have been issued for this scope, this is main statement

Page 1 of 4

This document is issued by the Company subject to its General Conditions of Certification Services accessible at www.sgs.com/terms_and_conditions.htm. Attention is drawn to the limitations of liability, indemnification and jurisdictional issues established therein. The authenticity of this document may be verified at <http://www.sgs.com/en/identified-clients-and-products/identified-client-directory>. Any unauthorized alteration, forgery or falsification of the content or appearance of this document is unlawful and offenders may be prosecuted to the fullest extent of the law.

付属書 C: 証明書

Product Carbon Footprint Verification Statement

DEKRA

This is to verify that

NOTHING TECHNOLOGY LIMITED
80 CHEAPSIDE, LONDON, ENGLAND. EC2V 6EE

As a result of performing the verification of cradle to grave greenhouse gas (GHG) emission, it's the opinion of DEKRA based on the verification report No.CFP-VER-20220616 with reasonable assurance that

- The cradle to grave product carbon footprint of Nothing Phone (1) is 58.4953 kilograms CO₂ equivalent per declared piece of product.
- No material misstatements in this GHG emission statement were revealed.

The cradle to grave GHG data quality was verified to be acceptable against the requirements of ISO14067:2018 & PAS2050:2008.

This statement shall be valid for a maximum period of one year after the latest issue date of this statement. Should there be any changes in the cradle to grave GHG emissions are being assessed, the validity of this statement will cease.

Statement Registration No. PCF 2022001C
Reporting Period: from 2021-11-01 to 2022-06-08
Originally Registration Date: 2022-07-18 Valid from 2023-07-17
Latest Revision Date: 2022-07-18 Valid to 2023-07-17

General Manager
Paulson Wei
DEKRA, Hangzhou, 2022-07-18

DEKRA Certification Approved
Hangzhou, China

This verification statement is based on the information made available to Hangzhou DEKRA Certification Co., Ltd., therefore Hangzhou DEKRA Certification Co., Ltd. can't be held liable to any party relying on or acting on the verification statement.

Hangzhou DEKRA Certification Co., Ltd
Floor 14th, International Sunyard, No. 1750 Jianghong Avenue, Binjiang District, Hangzhou, 310052

page 1 of 1

付属書 C: 証明書

Certificate

Inventory Standard	ISO 14067:2018
Certificate Registr. No.	CO 50563045 0001
Report No.	70312018 001

Certificate Holder: **NOTHING TECHNOLOGY LIMITED**
80 CHEAPSIDE, London, EC2V 6EE, United Kingdom

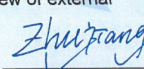
Verification Site: Refer to audit report (audit report number 70312018 001)

Verification Method: Verification Body: TÜV Rheinland (China) Ltd.
 - Process: Document review, interview, site visit and recalculation
 - Verification Standard: ISO 14064-3:2006

Verification Scope: Based on the information we have received and evaluated that:
 - Programme: Voluntary PCF scheme
 - Product Category Rules: N/A
 - Organizational Boundary: Operational Control
 - Level of Assurance: Reasonable
 - Materiality: 5%
 - Global warming potential (GWP): IPCC 2013
 - Analysis method: IPCC 2013 GWP 100a v1.02
 - LCA software and database: eFootprint V1.0; Ecoinvent 3.8; ELCD 3.0; CLCD-China-ECER 0.8; GaBi 10.6.2.9
 - Product: ear 2
 - Life cycle: Cradle to Grave
 - Time period: 2021.08.01~2022.07.31
 - Functional unit: 1 pcs of ear 2, continuous use 500 times charge and discharge
 - Model No. / Carbon emissions: Model 21211: 3.10 kg CO₂e

Validity: This certificate is valid from 2022-11-01 until 2024-10-31.
 This certificate only verified the target product/service carbon footprint, this verification does not include review of external communication.

2022-11-01


 TÜV Rheinland (China) Ltd.
 Room 301, 3F and Room 1203, 12F, Building 4, No.15, Ronghua South Road,
 Beijing Economic-Technological Development Area, Beijing (Yizhuang group in
 high-end industrial area of Beijing Pilot Free Trade Zone), 100176, P. R. China

© TÜV, TÜEV and TÜV are registered trademarks. Utilisation and application requires prior approval.

www.tuv.com



付属書 C: 証明書

Certificate

Standard	ISO 14067:2018
Certificate Registr. No.	CO 50545380 0001
Report No.	70308429 0001
Certificate Holder:	NOTHING TECHNOLOGY LIMILTD 80 CHEAPSIDE London EC2V 6EE United Kingdom

Scope:	<p>Verification and Validation Body: TÜV Rheinland (China) Ltd.</p> <ul style="list-style-type: none"> - Process: Document review, interview, site visit and recalculation <p>Based on the information we have received and evaluated that:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Programme: Voluntary PCF scheme - Product Category Rule: N/A - Review Criteria: ISO 14064-3:2006 - Organizational Boundary: Operational Control - Level of Assurance: Reasonable - Materiality: 5% - Global warming potential (GWP): IPCC 2013 - Analysis method: IPCC 2013 GWP 100a v1.02 - LCA software or database: eFootprint / Ecoinvent 3.5, CLCD-China-ECER 0.8 - Product: ear (stick) <ul style="list-style-type: none"> - Boundary: Cradle to Grave - Data period: 2022.01.01~2022.04.30 - Functional / Declared unit: 1 pcs - Model: Nothing Ear (stick) 38mAh/350mAh NTC ; Carbon emissions: 3.22 kg CO₂e, in which I-REC deducted 0.53 kg CO₂e.
Validity:	<p>This certificate is valid from 2022-07-12 until 2024-07-11</p> <p>This certificate only verified the target product / service carbon footprint, this verification does not include review of external communication.</p> <p>2022-07-12</p>

© TÜV, TÜV and TÜV are registered trademarks. Utilisation and application requires prior approval.

This verification and validation is based on the information made available to TÜV Rheinland and the engagement conditions detailed above. Therefore, TÜV Rheinland cannot guarantee the accuracy or correctness of this information. TÜV Rheinland cannot be held liable by any party relying on or acting upon this verification and validation.

www.tuv.com


TÜV Rheinland (China) Ltd.
Room 301, 3F and Room 1203, 12F, Building 4, No.15, Ronghua South Road, Beijing Economic-Technological Development Area, Beijing (Yizhuang group in high-end industrial area of Beijing Pilot Free Trade Zone), 100176, P. R. China

 **TÜVRheinland®**
Precisely Right.

最後までお読みいただき
ありがとうございます。